第3章 高校生の対異性行動

高校の男女共学化が急ピッチで進んでいる。中学生にとって、共学校か男子校・女子校かの学校選択は、高校生活の楽しさを規定する重要な要因らしく、昨今の人気は共学校である。文部省の調査でも昭和63年から平成5年までに女子校は35校、男子校は60校減少し、共学校が86校増加している。

前章でみた生徒たちの性意識を踏まえながら、高校生たちの対異性行動の実態を探っていくことにする。

1．軽いデート

まず、高校生の日々の学校生活から、男女の接触の状況をみてみよう。**図3－1**は同じ高校の女の子（男の子）と2人でイベントやショッピングに行ったことがあるか、つまり「軽いデート」の体験を尋ねたものである。「行ったことがある」男子は23.1%、女子27.4%しかなく、「行ったことがない」者が7割を超え、軽いデートの経験は、意外に少ない。

表3－1はその「軽いデート」を、誰と何回くらいしたかを示した。3割弱が軽いデートをしたことがあるといっても、同じクラスの子、違うクラスの子、他の学年の子とも1回くらいのデートで、それも1人の相手とが圧倒的である。アメリカの高校生や大学生のデートとはまったく違って、たまたま何かの機会に一緒に行動したという程度のものらしい。

図３－１　同じ高校の女の子（男の子）と２人でイベントやショッピングに行ったことがあるか

（%）

〔男　子〕

〔女　子〕

表３－１　つきあった回数・人数

（%）

			0	1	2	3	4以上
男子	同じクラス	回数	54.9	18.1	6.2	4.7	16.1
		人数	36.4	39.3	7.1	6.4	10.8
	違うクラス	回数	53.4	8.3	8.7	10.2	19.4
		人数	32.7	44.2	9.0	5.8	8.3
	他の学年	回数	65.7	8.6	3.4	4.6	17.7
		人数	47.9	29.4	8.4	5.9	8.4
女子	同じクラス	回数	62.9	11.7	9.9	6.0	9.5
		人数	48.4	35.9	7.8	0.9	7.0
	違うクラス	回数	57.3	12.5	10.0	4.5	15.7
		人数	42.1	44.4	8.3	1.6	3.6
	他の学年	回数	72.1	6.0	5.6	5.6	10.7
		人数	60.8	30.2	5.8	1.1	2.1

また中学生時代や高校に入って、どのくらいの人数の相手とつきあったかを**表3－2**に示した。中学生時代につきあった体験を持つ者は男子39.0%、女子48.9%、高校になってからは男子32.9%、女子43.2%と、女子の方が多い。表は省略したが、進路希望との関連では、男子は就職者に32.9%、これに対して難しい4年制大学希望者は17.9%と進路による差がみられるが、女子は4年制大学希望者と就職者との進路による差は少ない。最近、校内のあらゆる場面で女子生徒の元気のよさが目立つ傾向とも、関連がありそうだ。

次いで、今や若者の間でファッションとなった、バレンタインデーのギフトやクリスマスの過ごし方についてはどうか。まず今年のバレンタインデーに、チョコレートをやりとりしたかどうかをみてみる。**図3－2**によれば、男子でチョコをもらえたのは約6割、その中で「本命の人からもらった」10.7%、「本命の人からも義理チョコももらった」6.0%と、本命の人からチョコをもらえた者は合わせ2割弱でしかない。女子でも「本命の人にあげた」者は、3割にすぎない。

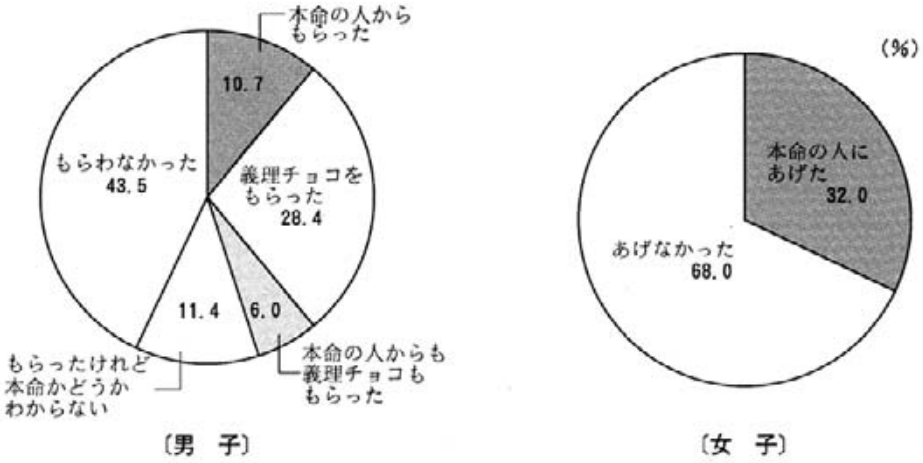
さらに**表3－3**によれば、去年のクリスマ

表3－2　何人とつきあったか

(%)

		0人	1人	2人	3人	4人以上
男子	中学生の頃	61.0	21.0	8.7	4.7	4.6
	高校に入って	67.1	20.3	6.0	2.4	4.2
女子	中学生の頃	51.1	27.5	10.8	5.6	5.0
	高校に入って	56.8	26.5	8.4	4.5	3.8

図3－2　バレンタインデーのチョコレート



〔男　子〕　〔女　子〕

スを「以前からつきあっている異性と２人で過ごした」者はこれも僅少で、男子5.2%、女子8.8%、と１割にも達しない。クリスマスやバレンタインデーでのホットな若者の行動が報じられるが、高校生はその賑わいとはあまり関係がない位置にいるようである。

しかし、こうしたファッションと高校ランクとは関連がみられ、表は省略したが、バレンタインデーのチョコのやりとりについては、下位校では「本命の人」にあげた女子は41.9%、上位校では27.1%、もらった男子は下位校で18.1%、上位校では13.1%と、顕著な差がみられる。また**表３－４**で、去年のクリスマスの過ごし方と高校ランクの関連をみると、「家族と過ごした」生徒は、高校ランクが上になるにつれ多くなる。「以前からつきあっている相手と２人で」過ごした生徒は下位校になるにつれて多くなり、特に女子にこの傾向が顕著である。男女とも家族と過ごすのは上位校に、中位校では同性の友だちと、下位校になると異性と一緒に過ごす者が多く、こうした対異性行動の文化差がみられる。

表３－３　去年のクリスマスを誰と過ごしたか

(%)

	男　子	女　子
1．家族と	59.2	49.2
2．同性の友だちと	14.6	26.1
3．なんとなく男女混じったグループで	10.3	7.4
4．異性の友だちを誘って２人だけで	1.9	1.1
5．以前からつきあっている相手と２人で	5.2	8.8
6．その他	8.8	7.4

表３－４　去年のクリスマスを誰と過ごしたか × 高校ランク

(%)

	男　子			女　子		
	上位校	中位校	下位校	上位校	中位校	下位校
1．家族と	68.4 >	56.8 >	54.1	60.1 >	45.4	47.4
2．同性の友だちと	12.2	16.9	12.2	22.1	32.6	17.5
3．なんとなく男女混じったグループで	9.7	8.4	15.6	6.8	5.8	10.6
4．異性の友だちを誘って２人だけで	0.8	1.9	2.9	0.0	1.3	1.7
5．以前からつきあっている相手と２人で	1.7	6.6	5.9	3.8 <	8.6 <	13.2
6．その他	7.2	9.4	9.3	7.2	6.3	9.6

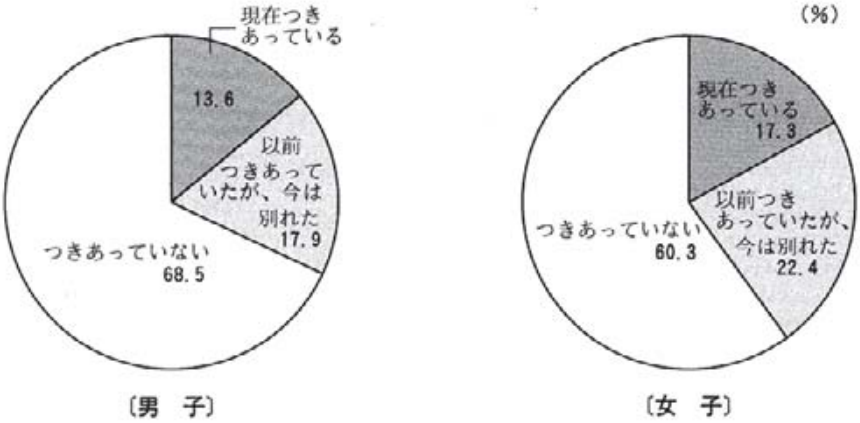
2．相手の有無とつきあい方

では、特定の異性との直接的な交際の様子をみてみよう。

まず**図3－3**は、「現在つきあっている相手」の有無を尋ねたものである。「現在つきあっている相手がいる」生徒は、男子13.6%、女子17.3%である。「以前つきあっていたが、今は別れた」生徒の数値を合わせても、男子の3割、女子の4割しか、異性とつきあった体験を持っていない。一般に言われているほどには、特定の相手との「つきあい」体験はないようである。ただし**表3－5**で学年別にみると、男女とも学年が上がるにつれ、つきあった体験も増え、3年女子では約5割に達する。**表3－6**は、成績との関連である。男女とも成績の下位者につきあい体験が多いことがわかる。

表3－7で相手の有無を高校ランク別でみると、「現在つきあっている相手がいる」割

図3－3　現在つきあっている相手がいるか



〔男　子〕　〔女　子〕

表3－5　現在つきあっている相手の有無 × 学年

(%)

		現在つきあっている	以前つきあっていたが、今は別れた	つきあっていない
男子	2年	12.2	16.5	71.3
		28.7		
	3年	16.8	21.1	62.1
		37.9		
女子	2年	15.8	19.5	64.7
		35.3		
	3年	20.4	28.3	51.3
		48.7		

合は上位校（男子9.4%、女子10.7%）、中位校（13.8%、15.6%）、下位校（18.0%、25.1%）と高校ランクが下がるにつれ多くなる。下位校の女子は「以前つきあったことがある」を合わせると、ほぼ5割にも達する。表は省略したが、つきあっている相手をみると、男子では上位校の生徒は「違う学校の相手」が51.5%で、他校へもつきあいが発展しているのに対し、下位校では「同じ学校」が61.1%と、過半数以上が校内での異性関係が中心である。女子では下位校の生徒に、専門学校生（32.9%）、社会人（16.5%）とつきあっている割合が高い。

では、彼らはどんな相手とつきあっている

表3－6　現在つきあっている相手の有無 × 成績

(%)

		現在つきあっている	以前つきあっていたが、今は別れた	つきあっていない
男子	上	10.5	14.5	75.0
	中の上	12.6	10.7	76.7
	中	13.1	16.6	70.3
	中の下	12.6	20.0	67.4
	下	17.4	22.7	59.9
女子	上	13.3	25.3	61.4
	中の上	16.6	23.0	60.4
	中	14.8	19.5	65.7
	中の下	16.7	25.0	58.3
	下	25.8	25.2	49.0

表3－7　現在つきあっている相手の有無 × 高校ランク

(%)

		現在つきあっている	以前つきあっていたが、今は別れた	つきあっていない
男子	上位校	9.4	17.5	73.1
		＜		
	中位校	13.8	20.3	65.9
		＜		
	下位校	18.0	13.1	68.9
女子	上位校	10.7	23.2	66.1
		＜		
	中位校	15.6	22.0	62.4
		＜		
	下位校	25.1	22.4	52.5

（いた）のだろうか。**表３－８**によれば、「同じ高校の人」が男子51.9%、女子43.8%と圧倒的に多く、「違う高校の人」男子36.8%、女子29.5%を合わせると男子９割、女子７割が、高校生どうしのつきあいということになる。また、つきあっている（いた）相手の年齢では、男子８割、女子７割が同じ年齢であり、女子は３割が年上の相手、男子の１割が年下の相手となっている。

次に、**表３－９**は、つきあっている（いた）相手との出会いのきっかけをみたものである。男女とも「クラスメートか同じ学年」「部活動や委員会で一緒」が出会いのきっかけである。同じ学年・クラス、部活動や委員会、友だちの紹介を合わせると男女とも約７割に達し、高校を中心に対異性行動が発展しており、共学校の人気の高さが納得できる。話題のテレホンクラブや伝言ダイヤル、雑誌の恋人募集などメディアを利用し、異性と知り合うきっかけを持った者もいないわけではないが、極めてわずかである。

さらに相手とのつきあい方のスタイルを、軽いつきあいの「登下校を一緒にしている」から、性体験の存在を予想できる「ファッションホテルやペンションへの旅行」まで尋ねたのが、**表３－10**、**図３－４**である。

表３－８　つきあっている（いた）相手の人

（%）

		男　子	女　子
どんな人か	1．同じ高校の人	51.9	43.8
	2．違う高校の人	36.8	29.5
	3．大学生や専門学校生	2.6	8.9
	4．社会人	1.3	10.0
	5．その他	7.4	7.8
年　　齢	1．同じ年の人	81.3	68.2
	2．少し年上の人	6.7	29.4
	3．年下の人	11.1	0.7
	4．30代くらいの人	0.3	1.5
	5．40、50代くらいの人	0.6	0.2

まず、図３－４によれば「いつも・わりと」よくしているつきあい方は、男子では「登下校を一緒にしている、手をつないだり肩を抱いて歩く」が３割、女子では「登下校を一緒にしている、毎晩のように長い電話をかける、クリスマスや誕生日に高価なプレゼントをあげる（もらう）、彼の部屋に行く、手をつないだり肩を抱き合って歩く、デートの帰りに軽いキスをする」項目が３～４割と、男子に比べ女子の対異性行動の積極性が目立つ。「ファッションホテルやブティックホテルに行く、夏休みなどには２人でペンションに旅行する」など性体験を伴う行動を「いつも・わりと」よくしている数値は男女とも低い。しかし、表３－10の「ぜんぜんしない」数値を引いた数値に注目すると「高校生が多少ともしている行為」としては、「相手の部屋に行く」が男子５割、女子６割、「手をつないだり肩を抱いて(抱き合って)歩く」は男女とも７割、「デートの帰りに軽いキスをする」男子５割、女子６割、「街や電車の中でもキスしたり抱き合ったりする」は男女とも３割、「ファッションホテルやブティックホテルに行く、夏休みなどには２人でペンションに旅行する」ことも２割くらいの者がしており、相手のいる高校生はかなり活発な性行動をしていると推察できる。

表３－９　知り合ったきっかけ

（%）

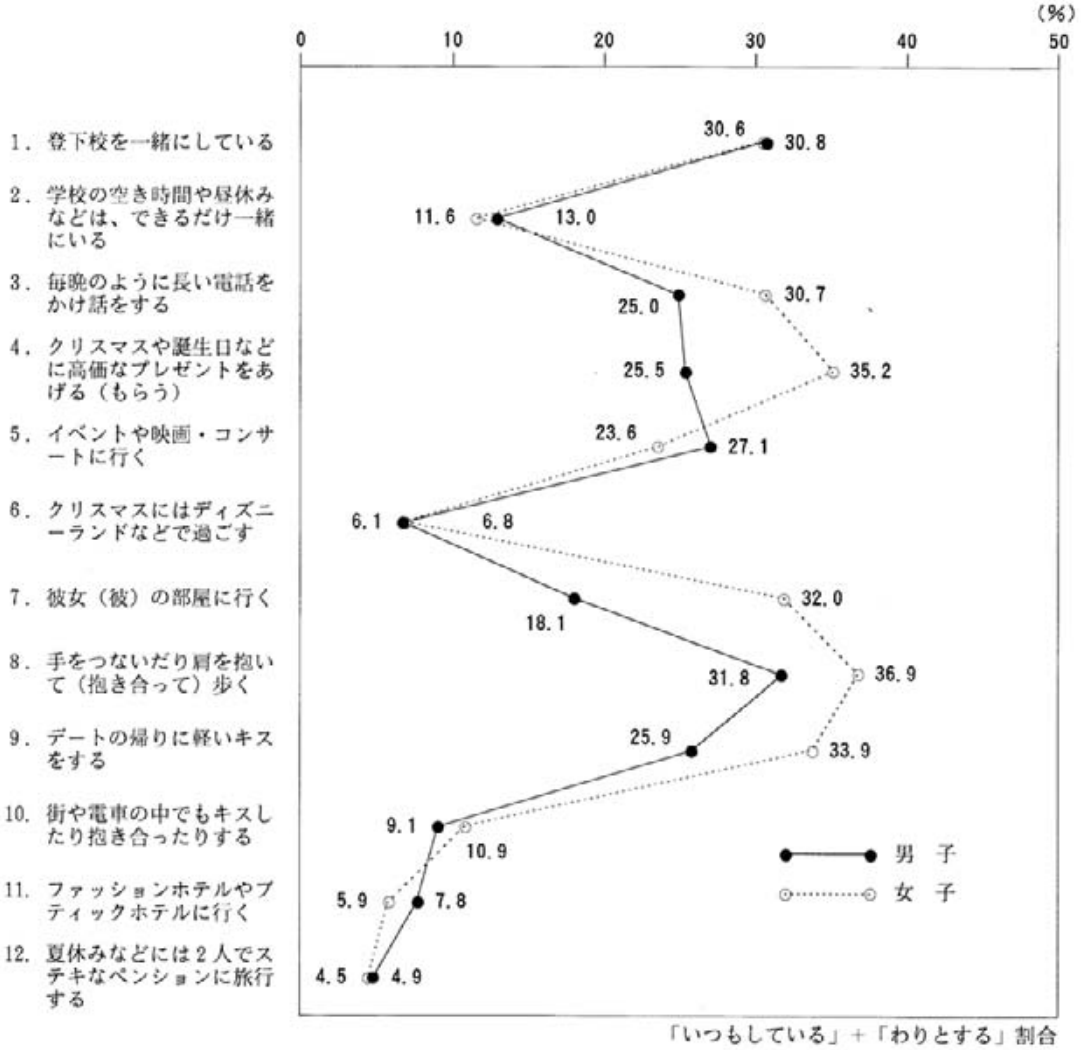
	男　子	女　子
1．クラスメート・または同じ学年	50.3	45.4
2．部活動や委員会で一緒	15.7	14.7
3．友だちの紹介	8.3	9.6
4．予備校や塾で知り合った	3.2	1.6
5．合コンで知り合った	2.2	2.7
6．趣味が共通で知り合った	2.2	1.8
7．学園祭などのイベントで知り合った	2.2	2.2
8．アルバイト先で知り合った	2.6	6.2
9．公園や街、コンビニなどで知り合った	2.2	2.2
10．海や旅行先などで知り合った	0.3	0.9
11．テレクラやデートクラブで知り合った	2.2	0.7
12．雑誌やラジオ番組の「恋人募集」などに応募して	0.0	0.2
13．伝言ダイヤルで知り合った	0.0	0.2
14．その他	8.6	11.6

表３－10　どんなつきあいをしている（いた）か

（%）

		いつも している	わりとする	ときどき する	あまり しない	ぜんぜん しない
1．登下校を一緒にしている	男　子	13.6	17.2	22.3	11.7	35.2
	女　子	10.9	19.7	19.0	12.3	38.1
2．学校の空き時間や昼休みなどは、できるだけ一緒にいる	男　子	4.2	8.8	14.3	20.8	51.9
	女　子	2.3	9.3	13.3	20.6	54.5
3．毎晩のように長い電話をかけ話をする	男　子	11.0	14.0	23.1	22.1	29.8
	女　子	14.7	16.0	23.7	22.6	23.0
4．クリスマスや誕生日などに高価なプレゼントをあげる（もらう）	男　子	11.3	14.2	25.2	22.3	27.0
	女　子	14.1	21.1	23.2	20.8	20.8
5．イベントや映画・コンサートに行く	男　子	7.4	19.7	29.4	24.5	19.0
	女　子	5.3	18.3	31.7	22.7	22.0
6．クリスマスにはディズニーランドなどで過ごす	男　子	3.2	2.9	4.9	11.7	77.3
	女　子	2.8	4.0	7.7	18.7	66.8
7．彼女（彼）の部屋に行く	男　子	8.1	10.0	10.7	15.9	55.3
	女　子	13.2	18.8	14.4	11.1	42.5
8．手をつないだり肩を抱いて（抱き合って）歩く	男　子	15.6	16.2	21.1	14.0	33.1
	女　子	20.2	16.7	17.2	16.0	29.9
9．デートの帰りに軽いキスをする	男　子	14.1	11.8	16.1	8.6	49.4
	女　子	20.6	13.3	11.7	13.1	41.3
10．街や電車の中でもキスしたり抱き合ったりする	男　子	6.2	2.9	5.5	13.4	72.0
	女　子	7.8	3.1	5.2	14.4	69.5
11．ファッションホテルやブティックホテルに行く	男　子	5.2	2.6	4.2	7.5	80.5
	女　子	3.1	2.8	3.5	5.9	84.7
12．夏休みなどには２人でステキなペンションに旅行する	男　子	3.9	1.0	2.6	7.1	85.4
	女　子	2.6	1.9	3.5	5.2	86.8

図3－4　どんなつきあいをしている（いた）か × 性



「いつもしている」＋「わりとする」割合

表３－11で、比較的性体験とかかわりの深い項目をとり出してみると、下位校に性体験やキスの経験を伴うつきあいの割合が高く、対異性行動が校内で活発化している様子がみられる。

相手のいる高校生、いない高校生の分析は４章でくわしく述べる。

表３－12は、これまでやりとりしたプレゼントの金額と品物である。プレゼントされた金額の最高は男女とも８万円で、プレゼントした金額では男子６万８千円、女子４万円とかなり高額になっている。こうした高価なプレゼントは、バイクの部品、バッグ、時計、洋服である。下位校の者の方がプレゼントでの平均金額が高く、アルバイトをしている者も下位校に多い。デートにかける費用のためにもアルバイトしているのかもしれない。

表３－11　どんなつきあいをしている（いた）か × 高校ランク

（%）

	男子						女子					
	上位校		中位校		下位校		上位校		中位校		下位校	
1．手をつないだり肩を抱いて（抱き合って）歩く	23.1	<	32.4	<	38.4		24.7	<	31.6	<	50.0	
	36.9	>	32.9	>	30.1		43.2	>	32.1	>	20.1	
2．デートの帰りに軽いキスをする	15.4	<	23.8	<	40.8		13.9	<	33.7	<	44.7	
	58.5	>	48.8	>	42.3		63.3	>	39.8	>	31.6	
3．街や電車の中でもキスしたり抱き合ったりする	4.6	<	7.1	<	16.7		3.8	<	9.2	<	15.9	
	80.0	>	74.7	>	60.9		84.6	>	73.0	>	57.6	
4．ファッションホテルやブティックホテルに行く	4.6	<	5.3	<	14.1		2.6	<	6.6		6.6	
	84.6	>	83.0	>	70.4		93.6	>	86.4	>	78.0	
5．夏休みなどには２人でステキなペンションに旅行する	4.6		2.9	<	8.7		1.3		5.1	<	5.3	
	89.2	>	88.3	>	78.3		93.5	>	85.9	>	83.3	

上段＝「いつもしている」＋「わりとする」割合
下段＝「ぜんぜんしない」割合

表3－12　プレゼント

(1) 今までに異性からプレゼントされたもの

男　子	女　子
チョコ　タオル　手袋	指輪　カレンダー　写真たて
キーホルダー　セーター　指輪	ネックレス　ガラスのくま　シャンプー
マフラー　テレホンカード　ネックレス	受験のお守り　パーカー　ボールペン
コップ　菓子	オルゴール　時計　現金
マグカップ　おもちゃ	マグカップ　遊園地の入場券
ＣＤ（コンパクトディスク）	電子手帳　クッキー、あめ
	手袋　キーホルダー　ＣＤ

(2) 今までに異性にプレゼントしたもの

男　子	女　子
オルゴール　カップ	タオル　手作りチョコ
財布　タオル	コーヒーカップ　手作りクッキー
時計　ＣＤ	マグカップ　手作り手袋
バッグ　キーホルダー	ネルシャツ　手作りマフラー
おみやげ　テレホンカード	マフラー　手作りセーター
指輪	バッグ　時計　手袋　ＣＤ
ネックレス	ハーフパンツ　おみやげ　財布
	セーター　チョコ　洋服

(3) 一番高価なプレゼント

	プレゼントされたもの		プレゼントしたもの	
	男　子	女　子	男　子	女　子
平　均	5,844円	7,760円	5,928円	5,571円
最高の金額	80,000円	80,000円	68,000円	40,000円

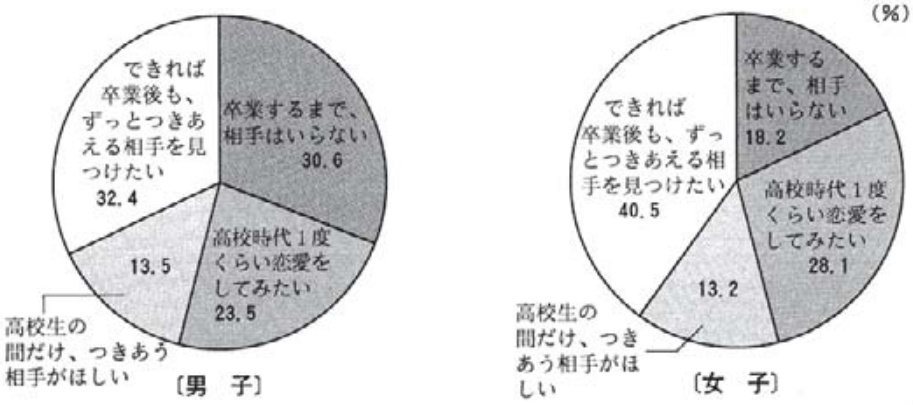
3．「つきあい経験」のない高校生の願望

ここでは、高校に入ってから異性とつきあった体験を持たない高校生についてみていく。なお今回の調査で相手のいない（高校に入ってからつきあったことのない）生徒は男子630名、女子680名であった。

図３－５は、「高校を卒業するまでに誰か異性とつきあいたいか」尋ねたものである。「卒業するまで、相手はいらない」とする者は男子30.6%、女子18.2%しかない。「高校時代１度くらい恋愛をしてみたい」は、男子23.5%、女子28.1%、「高校生の間だけ、つきあう相手がほしい」が、男子13.5%、女子13.2%、「できれば卒業後も、ずっとつきあえる相手を見つけたい」男子32.4%、女子40.5%で、相手を求める気持ちが潜在している。また、ここでも、男子に比べ女子に恋愛への関心の深さがみられる。

表は省略したが、学年別にみると、男子で

図３－５　〈高校に入ってつきあいのない人〉
今後、高校卒業までに誰かとつきあいたいか



は、2年生では「相手はいらない」とする者は25.8%が、3年生になると43.0%とほぼ過半数に達する。受験が迫ってゆとりがなくなるのだろうか。

さて現在、相手のいない生徒が、どんなつきあい方を望んでいるか。**表3－13**によると、男子では「休日にイベントや映画に行くくらいまでのつきあい」をしたいが、32.7%と最も多いが、「ＳＥＸするくらいまでのつきあい」を望む生徒も、27.8%いる。女子で最も多いのは「休日にイベントや映画に行くくらいまでのつきあい」が46.2%、次いで「お互いの家に行く」が19.2%、「キスするくらいまでのつきあい」が17.5%であり、性体験までは望んでいないが、キスをすることくらいまではと考えている。

また表によれば、3年生になると「ＳＥＸするくらいまでのつきあい」の願望が男女とも強まり、男子の3割、女子の1割がＳＥＸするくらいの深いつきあいを望むようになる。

次に、**表3－14**は具体的な項目で「つきあい方」を尋ねたものである。「ファッションホテルやブティックホテルに行く」が（「ぜひ・わりと」を合わせて）男子4割、女子では2割、「夏休みに2人でステキなペンションに旅行する」ことも男子6割、女子4割が望んでおり、つきあっていない者でも意識の上の性行動はかなり積極的である。

表3－13　どのくらいのつきあいをしたいか（相手のいない生徒）× 全体・学年

（%）

	男子				女子			
	全体	2年		3年	全体	2年		3年
1．登下校を一緒にするくらいまでの軽いつきあい	13.4	15.0	>	8.3	6.8	7.4	>	4.7
2．休日にイベントや映画に行くくらいまでのつきあい	32.7	31.6	<	36.4	46.2	46.9	>	43.4
3．お互いの家を行ったり来たりするくらいまでのつきあい	13.7	14.0	>	12.5	19.2	19.3	>	18.9
4．学校内や駅、電車の中でも手をつないだり抱き合うくらいまでのつきあい	3.9	3.8	<	4.2	2.9	2.4	<	4.7
5．キスするくらいまでのつきあい	8.5	9.2	>	6.3	17.5	17.7	>	17.0
6．ＳＥＸするくらいまでのつきあい	27.8	26.4	<	32.3	7.4	6.3	<	11.3

表３－14　どんなつきあいをしたいか（相手のいない生徒）

（%）

		ぜひそうしたい	わりとそうしたい	したくない
1．登下校を一緒にする	男　子	29.5	55.9	14.6
	女　子	33.2	54.0	12.8
2．学校の空き時間や昼休みなどは、できるだけ一緒にいる	男　子	11.9	47.5	40.6
	女　子	11.2	37.4	51.4
3．毎晩のように長い電話をかける	男　子	4.8	24.5	70.7
	女　子	6.3	25.4	68.3
4．クリスマスや誕生日にはプレゼントをあげる	男　子	43.4	46.1	10.5
	女　子	56.0	39.0	5.0
5．イベントや映画・コンサートに行く	男　子	44.3	47.1	8.6
	女　子	52.9	44.7	2.4
6．クリスマスにはディズニーランドなどで過ごす	男　子	20.8	40.4	38.8
	女　子	24.3	48.4	27.3
7．彼女（彼）の部屋に行く	男　子	26.5	53.8	19.7
	女　子	20.1	49.4	30.5
8．手をつないだり肩を抱いて（抱き合って）歩く	男　子	22.6	50.7	26.7
	女　子	16.6	41.6	41.8
9．デートの帰りに軽いキスをする	男　子	23.1	50.9	26.0
	女　子	15.3	46.7	38.0
10．街や電車の中でもキスしたり抱き合ったりする	男　子	9.2	14.0	76.8
	女　子	2.3	6.8	90.9
11．ファッションホテルやブティックホテルに行く	男　子	14.9	26.6	58.5
	女　子	2.9	13.9	83.2
12．夏休みなどには２人でステキなペンションに旅行する	男　子	22.5	39.9	37.6
	女　子	8.8	31.7	59.5

4．ナンパ－異性との接触を求めて

こうした対異性行動に至るまでに、生徒はどのように異性を求めて積極的に行動しているのだろうか。

表3－15は、出会いを求める行動である。「同じ部活動や委員会に入る、友だちに女の子（男の子）を紹介してもらう、合コンに行く、他校の学園祭に行く」など出会いを期待しての行動はいずれも数値が低く、それほど積極的に行動しているわけではなさそうだ。

すでにみてきたように、生徒の対異性行動は、ほとんどが学校中心のようだが、念のため学校外や街での様子を探ってみることにしよう。

まず異性との接触を求める行動、いわゆる「ナンパ」をみてみる。ナンパとは盛り場などで異性に声をかける行動で、近年では若者文化の1つとなった。**表3－16**によれば、ナンパは主として男子から女子への働きかけで、女子の6割がナンパされた経験を持っている。しかしナンパした経験を持つ男子生徒は、本サンプルでは12.4%と意外に少ない。

ではナンパされたとき、生徒はどのように

表3－15　つきあうきっかけを求めて

（%）

	男　子	女　子
1．同じ部活動や委員会に入る	12.4	22.7
2．他校の学園祭に行く	8.5	13.2
3．友だちに女の子（男の子）を紹介してと頼む	16.1	17.2
4．出会いを期待して、街やコンビニに行く	11.6	10.5
5．雑誌の「求む！ボーイフレンド、ガールフレンド」に応募する	0.6	0.4
6．合コン行く	10.5	11.5
7．伝言ダイヤルやテレクラに電話する	1.3	2.1

「したことがある」割合（複数回答）

表3－16　声をかけたり・かけられた体験（ナンパされたり・した体験）

（%）

	異性に声をかけられた（ナンパされた）体験	異性に声をかけた（ナンパした）体験
男　子	13.5　（116人）	12.4　（107人）
女　子	57.3　（579人）	1.9　（19人）

「ある」割合

反応するのだろうか。**表3－17**によると、「相手の顔も見ずに、ひたすら急いで歩く」者は男子14.7%、女子39.9%にすぎない。全体としては、男子はむろん、女子も多少とも反応するのがふつうのようである。ただし反応のしかたは「一応相手を見て、感じがよかったら、のりで返事をするくらい」が男女とも5割で多くを占め、「感じがよかったら、一緒に行動する」は、男子で36.2%、女子で10.2%でしかない。しかし男子の数字は、結構大きいとみることもできそうだ。

図3－6によると学年別では、男女とも学年が上がるにつれ積極的になっていく。

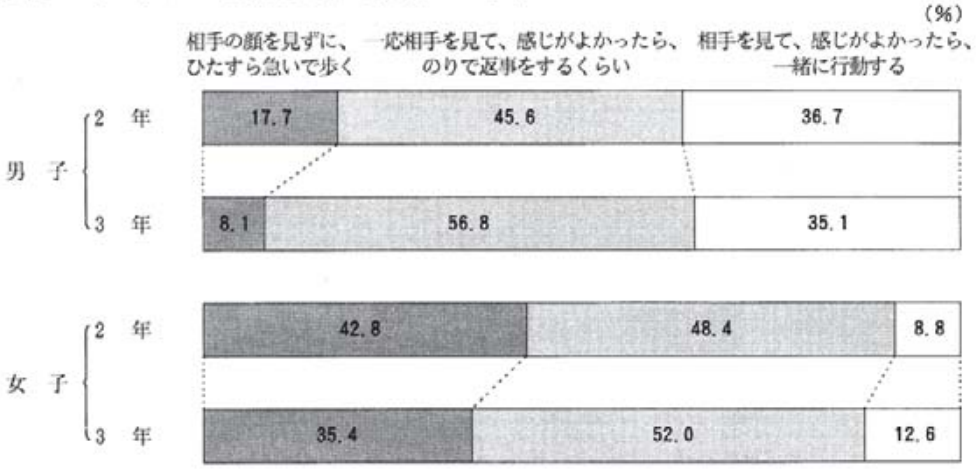
次に**表3－18**はナンパへの反応率、すなわ

表3－17　異性に声をかけられた（いわゆるナンパされた）とき

(%)

	男　子	女　子
1．相手の顔も見ずに、ひたすら急いで歩く	14.7	39.9
2．一応相手を見て、感じがよかったら、のりで返事をするくらい	49.1	49.9
3．相手を見て、感じがよかったら、一緒に行動する	36.2	10.2

図3－6　ナンパされたときの反応 × 学年



ち返事の返ってくる確率である。「１人に１人」、つまり100％の率で返事が返ってくる（ナンパの上手な）生徒は、男子18.8％、女子11.8％いるが、多くは「２～３人に１人」の反応率と言っている。

次にナンパされたり・した後の行動を表３－19でみると、男女とも「複数でお茶や食事をする」「カラオケに行く」のが一般的のようで、あまり深い発展はみせないもののようである。また、「ＳＥＸまでの深いつきあい」に発展した生徒は、男子３割と多いが、女子は2.8％とわずかである。

さて、ナンパしたり・された相手と、その後はどのくらいデートを重ねるのだろうか。表

表３－18　声をかけると何人に１人くらいの割合で反応するか

（％）

	１人に１人	２人に１人	３人に１人	４人に１人	５人に１人	６人に１人	７人に１人	８～10人に１人	11人以上に１人
男　子	18.8	20.8	18.8	5.2	20.8	3.1	1.0	9.4	2.1
女　子	11.8	47.1	11.8	5.9	11.8	－	－	5.8	5.8

表３－19　声をかけられたり・かけた相手（ナンパされたり・した相手）とどこまでつきあったか

（％）

	声をかけられた相手		声をかけた相手	
	男　子	女　子	男　子	女　子
１．友人と複数でお茶や食事をした	40.8	18.3	62.4	34.5
２．相手と２人だけでお茶や食事をした	20.0	7.8	38.1	20.7
３．友人と複数でドライブに行った	11.1	9.1	17.8	17.2
４．相手と２人だけでドライブに行った	11.1	5.8	15.5	10.3
５．カラオケに行った	37.5	18.5	55.6	36.7
６．電話番号を教えた	32.2	13.3	49.1	20.7
７．キスをした	24.8	7.8	34.9	17.2
８．ＳＥＸをした	23.5	2.8	30.8	0.0

「した」割合

3－20によれば、だいたい「1回だけ」で終わるのがふつうのようである。しかし、わずかではあるがその後もつきあっている者もおり、性別では男子にその傾向が強い。また表3－21によれば、ナンパを目的に盛り場などに行くことはほとんどないようで、男女ともおよそ75%の者が「その目的では、まったく行かない」と答えている。表は省略したが、ナンパでの反応と成績との関連は顕著でなく、以前はナンパすることもされることも特定の層の中で行われる非行的な側面を持っていたが、現在では、日常生活の中で遊び感覚化し、のりで返事をしたり、カラオケやお茶などを一緒にし、結構軽い楽しみの1つになっているようだ。

次いで、アルバイト先での異性行動につい

表3－20　声をかけられたり・かけた相手（ナンパされたり・した相手）とのその後のつきあい

（%）

	声をかけられた相手とつきあった女子	声をかけた相手とつきあった男子
1．1回だけ(その日だけ)つきあったこと	20.1	61.3
2．何回かつきあったこと	8.2	24.5
3．今もつきあっている	1.6	12.2

「ある」割合

表3－21　誰か異性と知り合いになれる(いわゆるナンパされる・できる)かもしれないと、にぎやかな場所に出かけること

（%）

	まったくない	1、2回ある	何回もある	いつもそう
男　子	73.9	15.7	7.6	2.8
女　子	78.7	15.6	5.2	0.5

てみていきたい。ほとんどの公立高校では夏休みなどを除いて原則的にはアルバイトは禁止に近いが、しかし高校生は、密かにアルバイトに熱心である。今回の調査では現在アルバイトをしている生徒は、図１－１でみたように、男子16.6%、女子21.4%であった。

表３－22は、アルバイト先で仲間や客をデートに誘ったり誘われた経験を尋ねた。「誘ったことがある」男子は12.2%、女子では7.8%、「誘われたことのある」男子17.4%、女子29.2%と３割未満の者が異性とのつきあいを体験している。その行動は、**表３－23**によれば「お茶や映画・スポーツ観戦」が一般的なつきあいのようであるが、男子の３割強は「キスやＳＥＸまでのつきあい」に発展させている。

表３－22　アルバイト先で、仲間やお客をデートに誘ったり誘われた体験

（%）

	誘った ことがある	誘われた ことがある
男　子	12.2	17.4
女　子	7.8	29.2

表３－23　アルバイト先で、仲間やお客を誘ったり誘われてしたつきあい

（%）

	誘ってしたこと			誘われてしたこと					
	男　子			男　子			女　子		
	何度もある	1、2回ある	1度もない	何度もある	1、2回ある	1度もない	何度もある	1、2回ある	1度もない
1．お茶や映画・スポーツ観戦などに行くつきあい	37.2	25.6	37.2	35.0	38.3	26.7	21.6	42.6	35.8
2．キスしたつきあい	21.9	18.8	59.3	16.3	16.3	67.4	5.7	9.5	84.8
3．ＳＥＸしたつきあい	26.7	6.7	66.6	21.6	9.8	68.6	4.7	4.7	90.6

また、話題のテレクラやダイヤルＱ２などの、メディアを通じての対異性行動はどうか。

表３－24（１）（２）によれば、「ダイヤルＱ２に電話したことがある」者は男子25.1%、女子19.5%、「テレクラに電話したこと」では男子8.9%、女子31.9%であり、ＳＥＸまでに発展する割合も２割弱と無視できる割合ではないことがわかる。

しかも、マスメディアを通しての性情報にも関心を抱いており、**表３－25**によれば、アダルトコミックやアダルト雑誌・ビデオなどを「毎週のように読みたい（見たい）」とする割合は、「アダルトビデオ」では男子で「毎週見たい」が13.0%、「ときどき見たい」を合わせると39.1%、「アダルトコミック」9.4%、「ときどき見たい」を合わせると30.7%、

表３－24　性情報との接触

(1)　(%)

	男子			女子		
	何度もある	1、2度ある	ぜんぜんない	何度もある	1、2度ある	ぜんぜんない
1．ダイヤルＱ２に電話したこと	5.8	19.3	74.9	5.0	14.5	80.5
2．テレクラに電話したこと	2.6	6.3	91.1	10.2	21.7	68.1
3．伝言ダイヤルに電話したこと	2.6	3.2	94.2	3.1	6.8	90.1
4．テレクラで知り合った人とデートしたこと	1.5	0.3	98.2	1.3	1.3	97.4
5．伝言ダイヤルで知り合った人とデートしたこと	1.5	0.1	98.4	0.9	0.4	98.7

(2)　(%)

	男子	女子
1．友人と複数でお茶や食事をした	9.9	23.8
2．相手と２人だけでお茶や食事をした	17.1	22.2
3．友人と複数でドライブに行った	8.7	16.9
4．相手と２人だけでドライブに行った	11.6	17.3
5．キスをした	17.1	17.1
6．ＳＥＸをした	20.0	11.1

「した」割合

「アダルト雑誌」11.6%、「ときどき見たい」を合わせると35.6%と3割を超えている。また女子は男子に比べ欲求は低いものの、「毎週・ときどき見たい」割合をみると「アダルトコミック」14.2%、「ヘアーヌード写真集」14.5%、「写真週刊誌のヌード写真」7.9%となっており、女子の性意識も変化してきている。

こうしてみると、高校生の対異性行動は主に学校中心に発展しているが、校外でもナンパ行動、アルバイトの機会、テレクラなどのメディア利用など、かなり多様な手段で出会いのチャンスを持っている。つきあい方も割合は少ないが、お茶やカラオケから、ＳＥＸを伴う深いつきあいまで多様である。

表３－25　雑誌やビデオとの接触

(%)

		毎週のように読みたい（見たい）	ときどき読みたい（見たい）	たまに読みたい（見たい）	ぜんぜん読みたくない（見たくない）
1．アダルトコミック（レディスコミック）	男子	9.4	21.3	41.3	28.0
		30.7			
	女子	2.0	12.2	42.9	42.9
		14.2			
2．アダルトビデオ	男子	13.0	26.1	42.3	18.6
		39.1			
	女子	1.2	4.9	31.9	62.0
		6.1			
3．『ベッピン』や『綺麗』、『ふ～』などのアダルト雑誌	男子	11.6	24.0	38.0	26.4
		35.6			
	女子	1.3	3.2	25.7	69.8
		4.5			
4．話題のヘアーヌード写真集	男子	10.4	15.2	36.4	38.0
		25.6			
	女子	2.1	12.4	32.1	53.4
		14.5			
5．『フラッシュ』や『フォーカス』など写真週刊誌のヌード写真	男子	8.7	14.1	35.6	41.6
		22.8			
	女子	2.2	5.7	25.8	66.3
		7.9			

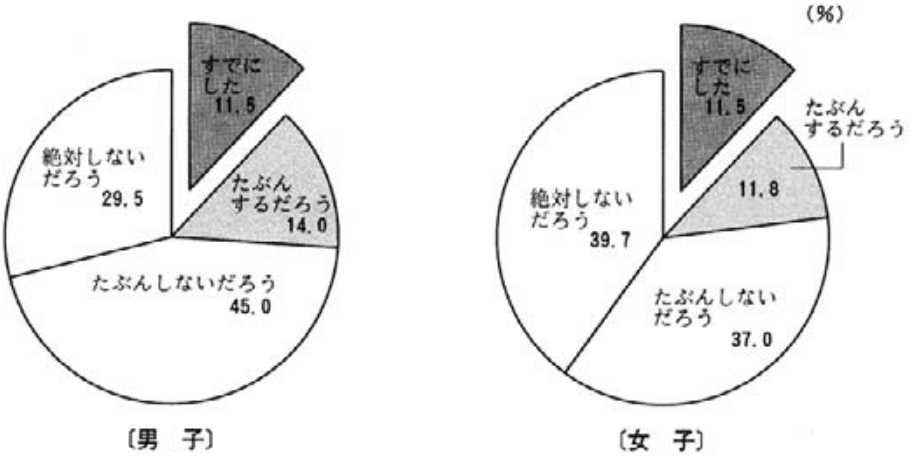
5．性体験とそのレディネス

高校生の性体験率については、憶測も交えて種々取りざたされているが、実態はどうなのか。

図3－7は、すでに性体験を持った者と、高校を終わるまでに自分が性体験をする可能性の予測についてみたものである。性体験者は、男女とも11.5%と1割を超える。これは多いというべきか、少ないというべきか。

さらに、今後性体験を「たぶんするだろう」とする者は男子14.0%、女子11.8%であり、

図3－7　性体験とその予測



合わせると25%前後の者が高校卒業までにはＳＥＸの体験をするか、そのレディネスを持っていることがわかる。「絶対しない」という強い意志を持つ者は男子で３割、女子は４割にすぎず、６～７割の者がその可能性を否定しない現状である。

表３－26は成績との関連だが、男子では体験者の割合は、成績の上位者16.0%、下位者18.5%と、成績の上位者・下位者は体験率が高い。一方、「絶対しない」という意志を持つ者は上・中の上・中位者ともほぼ34%であるが、下位者は25.4%と低い。女子の体験者は上位者6.0%に対し下位者24.8%と差が顕著であり、下位になるにつれ体験率が上昇する。「絶対しない」割合は上位者43.4%、中の上位者では47.5%であるが、下位者では28.9%と、男子同様にレディネスが感じられる。成績の下位者は、つきあっている相手に「社会人」が多いことから、体験率は今後卒業までにさらに上昇することもありそうだ。

表３－26　性体験とその予測 × 成績

(%)

		すでにした	たぶんするだろう	たぶんしないだろう	絶対しないだろう
男子	上	16.0	8.0	42.7	33.3
	中の上	5.7	15.7	44.6	34.0
	中	7.6	13.0	44.9	34.5
	中の下	11.2	11.8	52.9	24.1
	下	18.5	17.1	39.0	25.4
女子	上	6.0	7.2	43.4	43.4
	中の上	9.1	10.5	32.9	47.5
	中	9.6	9.9	42.7	37.8
	中の下	9.9	15.3	36.1	38.7
	下	24.8	16.8	29.5	28.9

表３－27は性体験とその予測を、高校ランク別にみたものである。性体験者は男女とも下位校に多く、その差は著しい。男女差では下位校の女子が性体験している割合は２割を超え、「たぶんするだろう」を合わせるとおよそ４割に達し、男子の３割と比べ異性行動が活発化している様子が目を引く。

また**表３－28**（複数選択）によると、性体験した相手は「クラスメートか同じ学年の人」が男女ともにおよそ60％、「部活動や委員会で一緒の人」がおよそ25％と、ほとんど同じ学校の生徒である。しかし、男子は「アルバイト先で知り合った人、合コンで知り合った人、公園や街、コンビニなどで知り合った人」の割合も20％を超え、女子でも多くはないが10％を超える。さらに、「テレクラやデートクラブで知り合った人」の割合も男子14.0％、女子7.4％と、ある割合を占める。もはや性体験も、テレクラやアダルトビデオなどの性情報も、彼らにとっては特別なものではないらしい。

表３－27　性体験とその予測 × 高校ランク

（％）

		すでにした	たぶんするだろう	たぶんしないだろう	絶対しないだろう
男子	上位校	3.0	12.4	50.8	33.8
		15.4			
	中位校	13.2	15.2	42.3	29.3
		28.4			
	下位校	17.7	13.3	43.9	25.1
		31.0			
女子	上位校	4.4	9.3	37.9	48.4
		13.7			
	中位校	9.2	9.2	39.3	42.3
		18.4			
	下位校	20.7	18.0	32.6	28.7
		38.7			

表３－28　性体験した相手

（%）

	男　子	女　子
1．部活動や委員会で一緒の人	25.7	24.3
2．クラスメート・または同じ学年の人	58.0	59.6
3．予備校や塾で知り合った人	20.4	3.2
4．友だちの紹介で知り合った人	37.8	30.1
5．公園や街、コンビニなどで知り合った人	20.2	11.6
6．海や旅行先などで知り合った人	23.6	2.2
7．学園祭などのイベントで知り合った人	25.0	6.4
8．アルバイト先で知り合った人	21.8	14.7
9．合コンで知り合った人	28.9	13.4
10．テレクラやデートクラブで知り合った人	14.0	7.4

6．まとめ

以上から注目されるのは、高校生の対異性行動が高校ランクや成績によって、大きな差がみられる点である。下位校の生徒は校内での異性交際やナンパへの積極的な反応、刺激的な性情報への関心も高い。下位校に在学している高校生は就職、専修・専門学校、短大希望の者が多く、予備校への通学率や部活動参加率も低い。したがって自由に使える時間が多く、アルバイトにも熱心である。それだけに、下位校の生徒は上位校の生徒より、社会の中で生活する体験が増え、早い時期から豊富におとな文化に接触する機会を持つ。いわば急速におとなの文化にふれ、それを自分のものとしていく。余暇行動に関しては、勉強に圧迫されて自己抑制を強いられる成績上位者や、上位校の生徒より、成績下位者や下位校の生徒の方が、ある意味で、年齢にふさわしい対異性行動を発展させているといえるかもしれない。

しかし第２章でみた「避妊さえ完全ならば、ＳＥＸしてもかまわない」とする性意識も、下位校で著しく高い。「性」をコントロールできない、性情報に影響を受けやすいいわば「危うい」生徒もいるとすれば、その対異性行動の現状を安易に肯定してはならないかもしれない。

関連して「学校生活」「放課後や休日」が「とても充実している」と答えた割合をみると、「学校生活」については男子女子とも上位校に数値が高かったが、下位校もそれに次ぐ数値であった。逆に「放課後や休日」は、下位校ほど充実感が強い。下位校の高校生は異性体験やおとな文化との接触によって、上位校での充実感とは違った余暇生活の充実感を持っていると推察できる。

また、女子の性意識が大きく変化し、対異性行動の活発化傾向がみられる。さらに、過剰な性情報が、異性に対する「健康な関心」を失わせ、テレクラやダイヤルＱ２に遊び感覚でコミットし、さらにナンパへは「のり」で反応するなどの現状は、性体験でさえも「のり」で経験してしまう可能性も否定できない。生徒の性的欲求を、もっと健康なかたちでサポートし、健康な対異性行動が実現できるようにするには、どうしたらいいであろうか。この点は、「広く浅く」というアメリカのデート文化にも、学ぶべき側面がありそうである。

第4章 相手のいる高校生をめぐって

これまでの章で、高校生の異性行動について軽いデートの現状や、生徒の対異性行動の願望や性意識、つきあいの現状、出会いのきっかけや性情報への接触などを分析してきた。

最後に、現在相手のいる生徒といない生徒を比較して、どんな生徒が相手を持っているか、そして相手ができることで、生活の中で何が変わるのかを探ってみたい。

1. 生活の充実感

まず、相手のいる生徒といない生徒のライフスタイルがどう違うか、みてみよう。なお現在相手がいる割合は、図3－3でみたように、男子13.6%、女子17.3%である。また表3－6でみたように、成績との関連では、成績の下位者に相手がいる割合が多い。

さて表4－1に示したように、男女とも相手がいる者にアルバイトをしている者が多くなっている傾向がみられる。なお以下は、「現在相手のいる者」（男子123名、女子182名）と「相手のいない者」（男子618名、女子636名）を抜き出して、両群を比較した。す

表4－1　アルバイト × つきあっている相手の有無

(%)

		している	していない
男子	現在つきあっている	30.3	69.7
		＞	
	つきあっていない	12.5	87.5
女子	現在つきあっている	35.9	64.1
		＞	
	つきあっていない	14.4	85.6

なわち「かつて相手がいた生徒」は外してある。

ではまず、相手のいる者といない者で、生活の充実感を比較してみよう。**図4－1**によれば、「放課後や休日の充実感」では相手のいる者の充実感（「とても充実」）は男子28.2%、いない者は13.8%、同じく女子は20.1%、11.7%と大差である。

また**図4－2**は学校生活の充実感だが、「とても充実」は、相手のいる群では16.3%、いない群では9.5%、女子は19.8%、14.0%と放課後や休日ほどではないが、やはり差がみられる。相手ができると放課後の充実感が強まるのは当然としても、学校生活の充実感まで高まるのは、生活全体が活性化するのであろう。学業とは別な楽しみが、学校生活に生まれるのであろう。

図4－1　放課後や休日の充実感 × つきあっている相手の有無

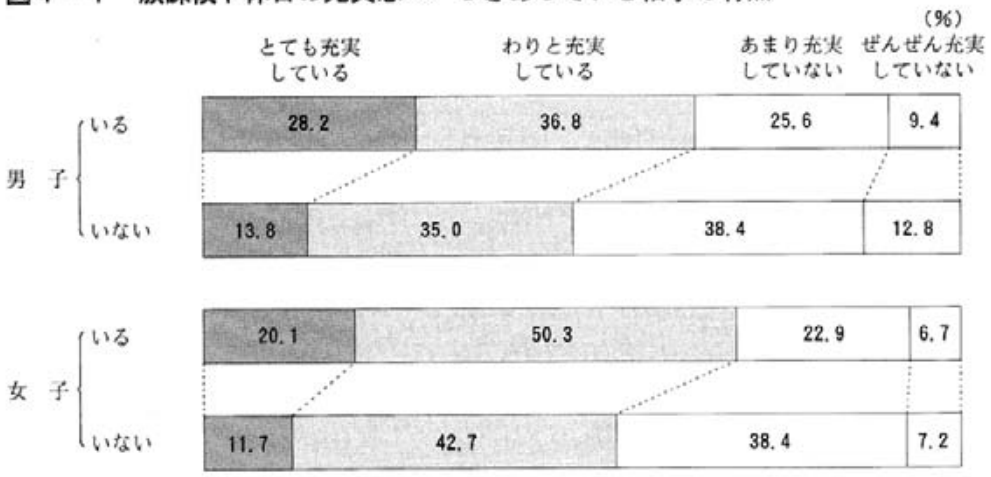
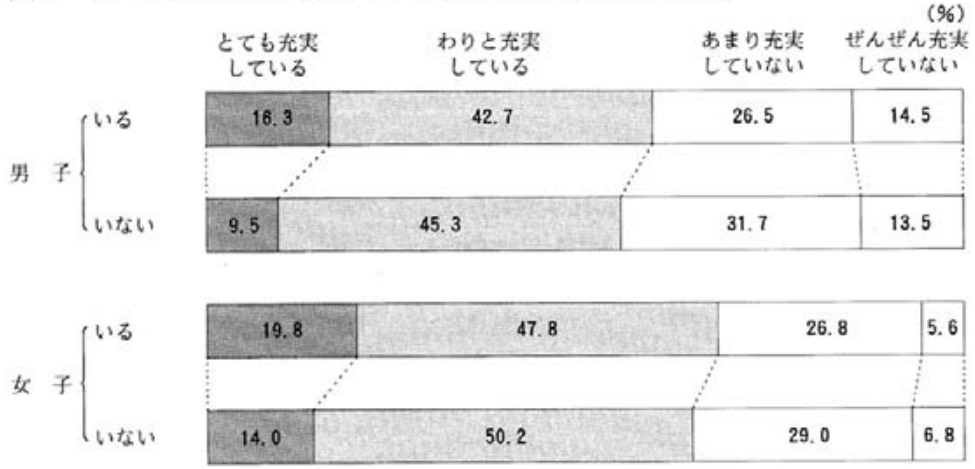


図4－2　学校生活の充実感 × つきあっている相手の有無



2．相手の有無と自己像

次に相手ができると自己像はどうなるか。まず**表4－2**で、自分自身の性的魅力についての自己評価をみてみる。「異性に人気があるか」では、当然とはいえ、男女とも相手のいる者は自分を「異性からも同性からも人気がある」、または「異性からは好かれるが、同性からは反発をうけやすい」とし、相手のいない者は「同性には人気があるが、異性にはぜんぜんモテない」「どちらからも人気がない」と自己評価をしている。

表4－2　異性に人気があるか × つきあっている相手の有無

(%)

	男子			女子		
	いる		いない	いる		いない
1．同性にも異性にも人気がある	40.6	>	11.6	22.4	>	7.6
2．異性から好かれるが、同性には反発をうけやすい	7.2	>	2.0	12.8	>	2.4
3．同性には人気があるが、異性にはぜんぜんモテない	27.0	<	38.1	34.7	<	54.2
4．どちらからも人気がない	25.2	<	48.3	30.1	<	35.8

表4－3では、自己像との関連を示した。男女とも相手のいる者は「異性にモテる、スポーツが得意、音楽が好き、おしゃれのセンスがある、ルックスがいい、いつも面白いことを言って、みんなに受ける、クラスで友だちが多い、学校以外に遊びや趣味の友だちがたくさんいる」と、明るい自己評価をしている。それに引き換え、いない群で数字が高いのは、男子では「読書が好き、よく勉強している」、女子は「読書が好き」でしかない。

表4－4、表4－5では、将来のライフスタイルを尋ねた。表4－4によれば、相手のいる者にやや家庭志向が、相手のいない者は仕事志向がみられる。表4－5によれば、女子生徒は、相手がいない群では、「家庭と仕事の両立」「独身で仕事に専念」など仕事志向者が多い。両方を合わせると、いない群では41.3%、いる群では31.4%となっている。

以上、相手がいる高校生は、自己像が明るく、性的な存在としての自分に自信を持ち、放課後や休日の充実感が大きい。それのみならず、学校生活の充実感も高い。ただ、とくに男子に成績の下位者が多い点が問題ではなかろうか。成績や進路にかかわりなく、健康なつきあいやデートができることが、望ましいのではなかろうか。

表4－3　自己像 × つきあっている相手の有無

(%)

	男子			女子		
	いる		いない	いる		いない
1．スポーツが得意	69.0	>	45.0	48.4	>	36.1
2．音楽が好き	94.2	>	79.5	94.0	>	89.1
3．読書が好き	38.3	<	45.5	48.0	<	60.9
4．おしゃれのセンスがある	38.3	>	14.4	35.5	>	22.7
5．ルックスがいい	28.4	>	10.3	18.1	>	6.8
6．よく勉強している	9.2	<	14.7	15.3	>	11.1
7．いつも面白いことを言って、みんなに受ける	45.0	>	20.3	40.3	>	32.5
8．クラスで友だちが多い	63.3	>	45.5	54.1		54.6
9．異性にモテる	30.0	>	4.8	16.2	>	3.6
10．学校以外に遊びや趣味の友だちがたくさんいる	73.3	>	51.3	58.4	>	44.7

「とても」＋「わりと」そう思う割合

表４－４　家庭か仕事か × つきあっている相手の有無

(%)

	男子			女子		
	いる		いない	いる		いない
1．どちらかといえば仕事中心の人生	10.3	<	14.6	7.3	<	16.3
2．どちらかといえば家庭中心の人生	39.7	>	30.0	65.9	>	49.6
3．仕事も家庭もほどほどに	50.0	<	55.4	26.8	<	34.1

表４－５　希望するライフスタイル × つきあっている相手の有無

(%)

	妻に望むライフスタイル			女子高校生が望むライフスタイル		
	いる		いない	いる		いない
1．専業主婦	33.0	<	37.2	24.7	>	21.3
2．子どもが生まれたら１度仕事をやめて、適当な時期にパートなどを始める	48.2	>	45.7	43.9	>	37.4
3．ずっと、家事育児と仕事を両立させる	18.8	>	17.1	27.5	<	31.1
4．独身で仕事に専念する	－		－	3.9	<	10.2

3．異性観について

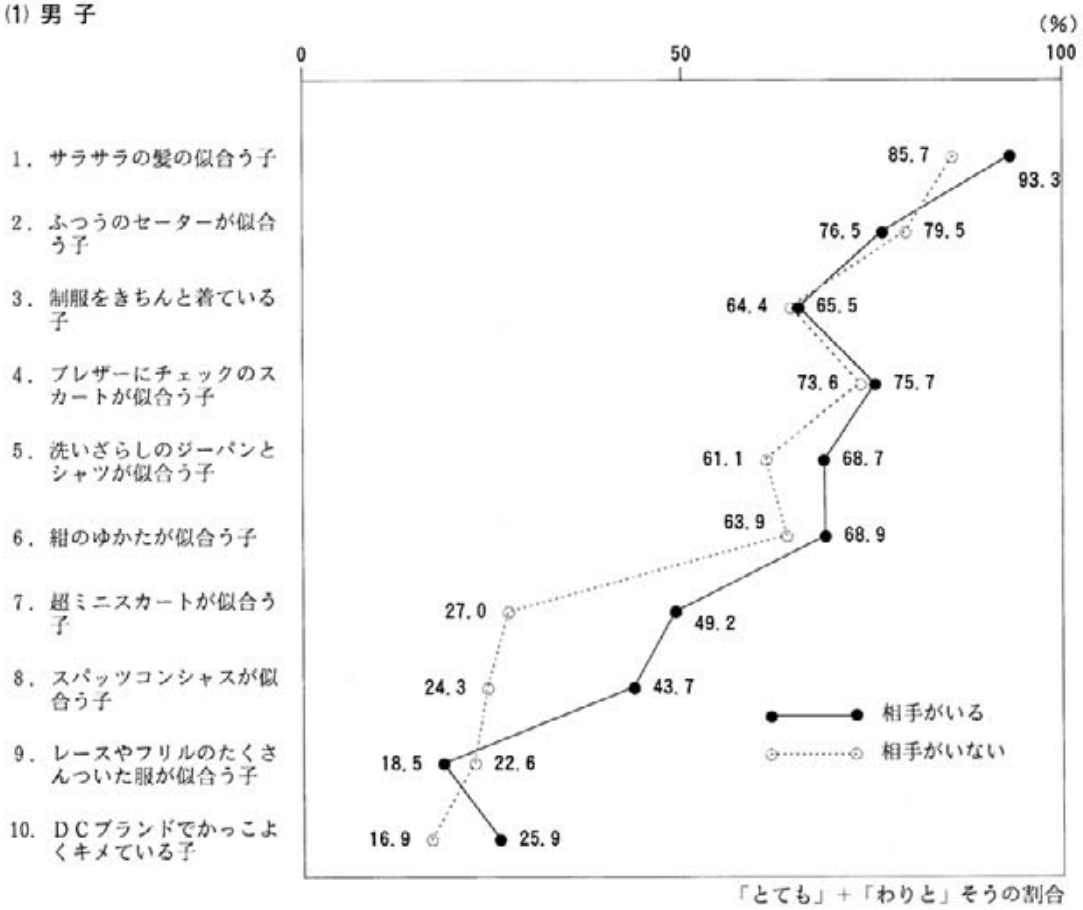
つきあっている相手の有無で、異性観はどう違うか。相手の有無による異性観の違いをみていきたい。

図4－3、図4－4は、好む異性のファッションとタイプである。「とても・わりと」を合わせた数値で比較している。

まず図4－3によると、男子では「超ミニスカートの似合う子」「スパッツコンシャス

図4－3　好感を持つ異性のファッション × つきあっている相手の有無

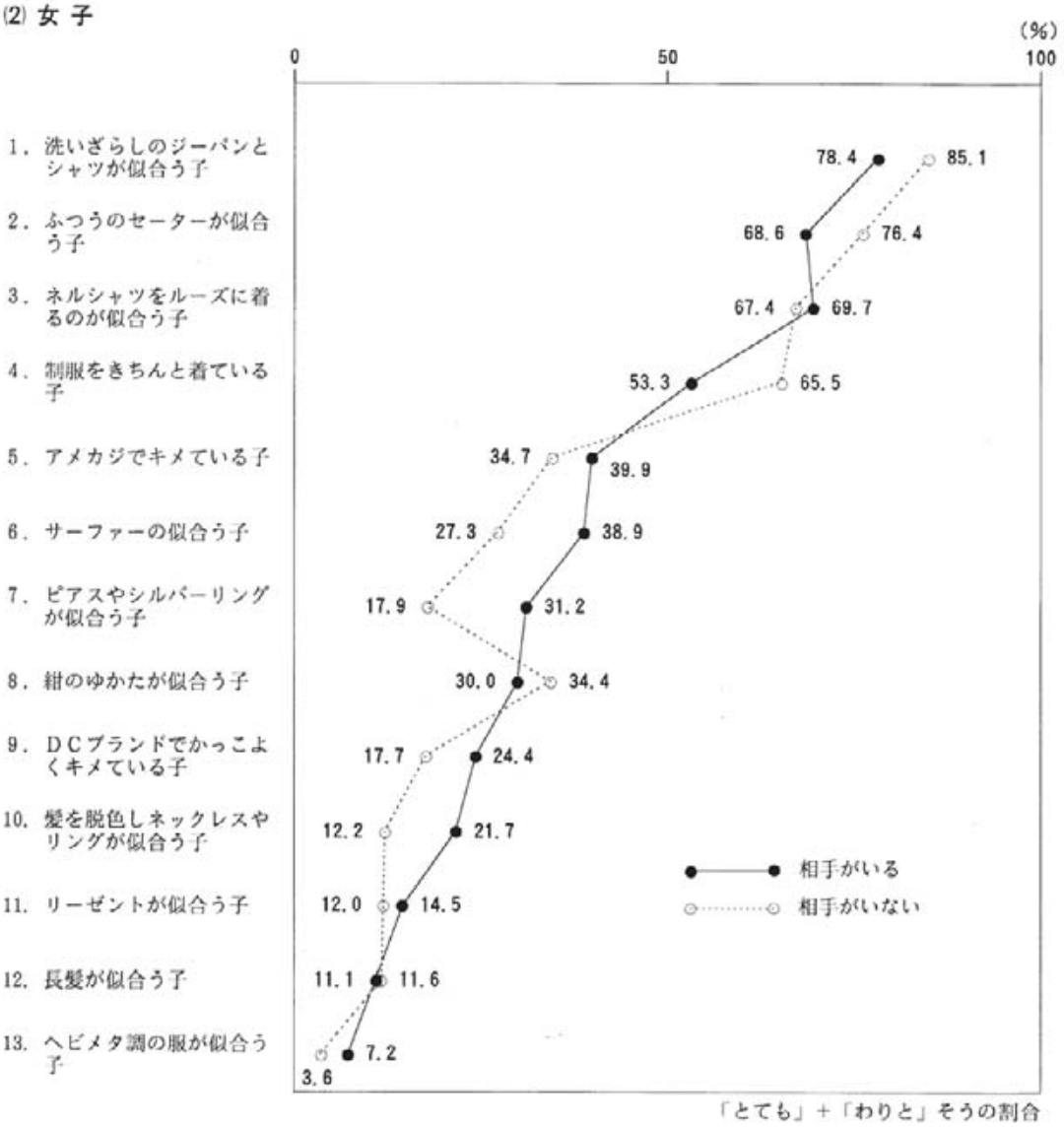
(1) 男 子



が似合う子」「ＤＣブランドでキメている子」の割合が、相手のいない者より大差で好まれている。自分の男性性に自信があるからであろう。女子も相手のいる子は、「サーファーの似合う子」「ピアスやシルバーリングが似合う子」「ＤＣブランドでかっこよくキメている子」「髪を脱色しネックレスやリングが似合う子」など、やや危ない感じのする要素に魅力を感じる割合が高い。

図４－４は性格の好みである。相手のいる男子の好む異性の性格は「美人で評判の女の子」「流行のファッションでキメている女の子」「キスの好きな女の子」「お小遣いをたくさん持っている女の子」「いつもギャグを言って、みんなを笑わせる女の子」「悩んでいるとき、さりげなく気をつかってくれる女

⑵ 女 子



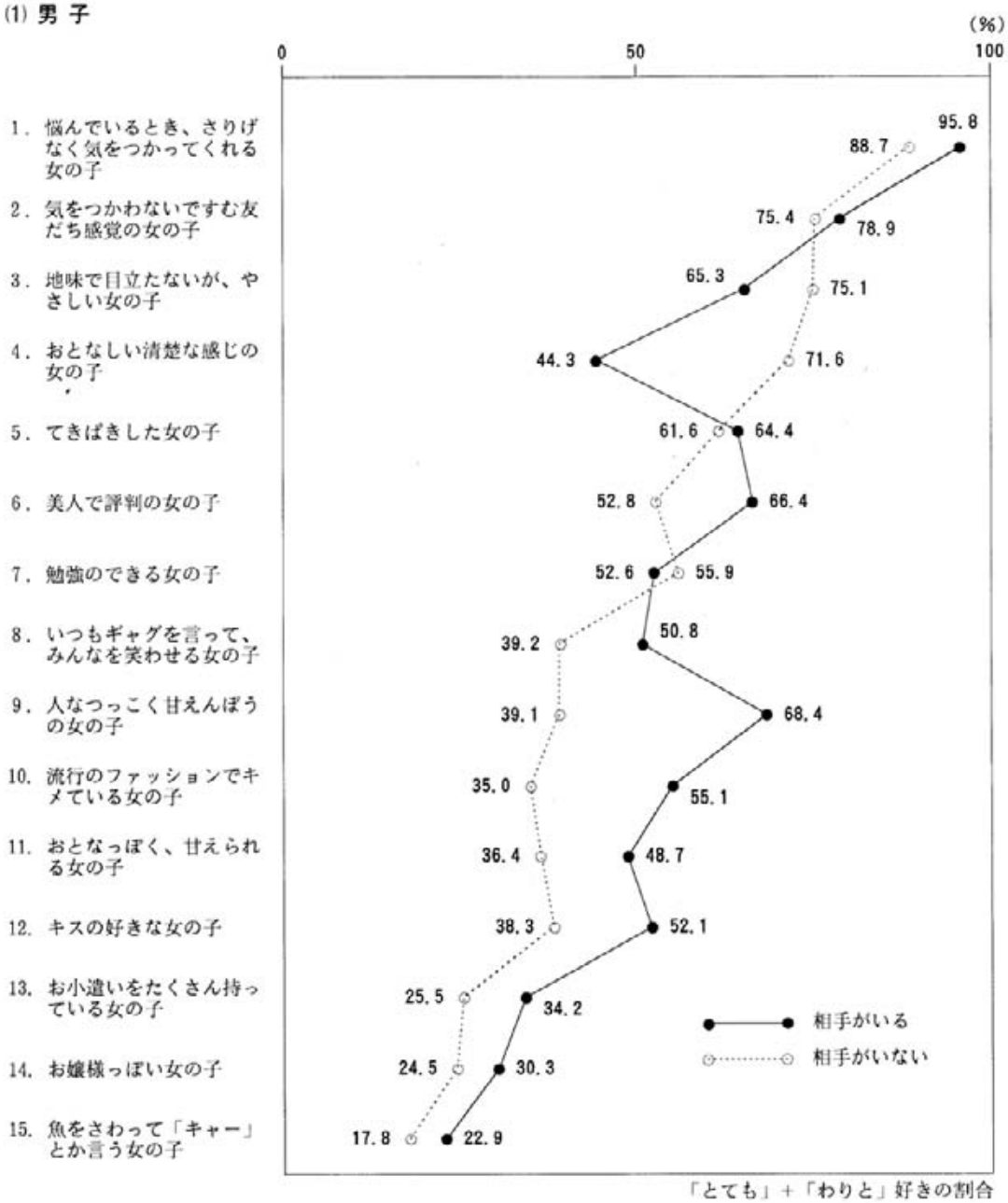
「とても」＋「わりと」そうの割合

の子」「おとなっぽく、甘えられる女の子」「人なつっこく甘えんぼうの女の子」と、遊び感覚でつきあえ、少し危ない感じのする、コケティッシュな魅力を持つ女性を好むようである。一方、相手のいない男子が好むのは「地味で目立たないが、やさしい女の子」「おとなしい清楚な感じの女の子」「勉強のできる女の子」である。

相手のいる女子でも同様で、「キスの上手な男の子」は70.3%、いない者は38.8%と大

図4－4　好感を持つ異性のタイプ × つきあっている相手の有無

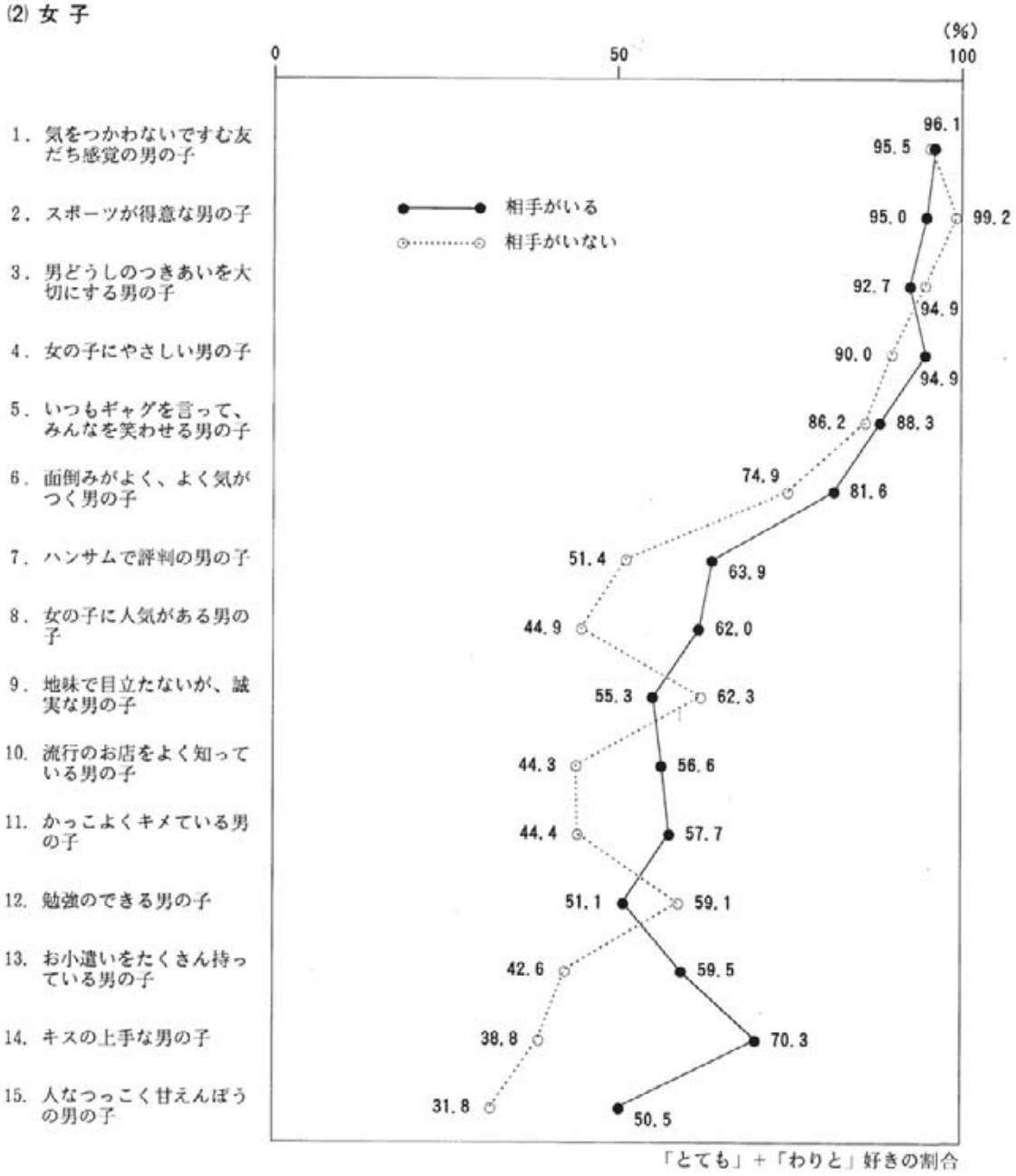
(1) 男 子



「とても」＋「わりと」好きの割合

差で、また「ハンサムで評判の男の子」「女の子に人気がある男の子」も差が大きい。それに「面倒みがよく、よく気がつく男の子」「流行のお店をよく知っている男の子」「かっこよくキメている男の子」「お小遣いをたくさん持っている男の子」と続く。他方相手がいない女子は、小差だが「地味で目立たないが、誠実な男の子」「勉強のできる男の子」を好んでいる。

(2) 女 子



「とても」＋「わりと」好きの割合

4．性意識と性行動

相手のいる子は、性に対してどのような欲求と感じ方を持っているのだろうか。

まず**表4－6**は、ナンパの経験である。相手のいる者は男女ともナンパされたり、ナンパしたりする割合が高い。とくに女子のナンパされた経験を持つ者は80.6%、いない者は43.4%と大差である。繁華街に足を延ばす機会の問題であろうか。それとも同じ場面でもすきがあり、誘いにのってくれそうな感じを持っている子なのだろうか。またナンパされたときの反応は、**表4－7**によれば、相手がいる者は「一緒に行動する」割合が高い。男

表4－6　ナンパの経験 × つきあっている相手の有無

(%)

	ナンパしたこと	ナンパされたこと（声をかけられた）	
	男子	男子	女子
いる	30.6	46.7	80.6
	＞	＞	＞
いない	6.3	34.9	43.4

「ナンパの経験がある」割合

表4－7　ナンパされたときの反応 × つきあっている相手の有無

(%)

		相手の顔も見ずに、ひたすら急いで歩く	一応相手を見て、感じがよかったら、のりで返事をする	相手を見て、感じがよかったら、一緒に行動する
男子	いる	6.6	46.7	46.7
		＜		
	いない	32.5	47.5	20.0
女子	いる	42.3	46.4	11.3
	いない	46.8	45.3	7.9

子についてみると「相手の顔も見ずに、ひたすら急いで歩く」と答えた生徒は、相手がいる者ではわずか6.6%、いない者は32.5%と大差である。「相手を見て、感じがよかったら、一緒に行動する」も、相手のいる者は46.7%、いない者は20.0%である。女子も差は少ないが、同様な傾向を示している。相手のいる者は、対異性行動に積極性を持つ層といえそうである。

次に性意識をみてみる。**表4－8**はアダルトコミックやアダルトビデオなど、性情報への接触状況との関連である。男子で相手のいる者は性情報への「アダルトコミック、アダルトビデオ、アダルト雑誌、ヘアーヌード写真集、写真週刊誌のヌード写真」を「毎週・ときどき読みたい（見たい）」割合は3～4割であり、刺激的な性情報への接触欲求が強い。女子も男子ほど数値は高くないが、同様の傾向にある。また、表は省略したが、ダイヤルQ2への接触は相手のいる男子で4割、女子で2割、テレクラへは男子で2割、女子では5割の者が接触した経験を持っている。

表4－8　性情報への接触欲求 × つきあっている相手の有無

（%）

		アダルトコミック	アダルトビデオ	アダルト雑誌	ヘアーヌード写真集	写真週刊誌のヌード写真
男子	いる	33.9	42.6	41.0	32.3	28.9
		∨	∨	∨	∨	∨
	いない	30.0	35.6	32.9	23.7	21.7
女子	いる	14.5	8.9	7.2	16.1	11.0
		∨	∨	∨	∨	∨
	いない	11.8	4.3	3.4	13.9	6.3

「毎週のように」＋「ときどき」読みたい（見たい）割合

表4－9は、アダルトビデオを見る高校生に対する意見である。「アダルトビデオを見る男子高校生」については、相手のいる者の方が「ごく自然なこと」と肯定的見方をしている。相手のいる群は「自然なこと」が男子で64.7%、いない群は49.7%、女子でも61.3%と42.0%。また、「アダルトビデオを見る女子高校生」についても同様に「自然なこと」とする見方は、小差ではあるが同じ傾向である。

さらに**表4－10**は、「避妊さえ完全ならば、高校生どうしＳＥＸしてもかまわない」とする者の割合である。相手のいる者は男子で83.9%、相手のいない者は73.1%、女子は同じく87.6%と71.3%と、前者に許容性が大きい。

以上、相手がいる者は性情報への接触欲求が強く、相手を求める行動へも積極的である。

最後に、異性とのつきあい観をみてみる。**表4－11**によれば、相手がいない者は、男女とも「高校時代は、異性よりたくさんの同性の友だちとつきあいたい」「魅力的でつきあいたいと思える人がまわりにいない」「告白

表4－9　アダルトビデオとの接触 × つきあっている相手の有無

(1) アダルトビデオを（男の子の友人と）ときどき見る男子高校生　(%)

	男子			女子		
	いる		いない	いる		いない
1．意志が弱いか、非行がかっている生徒だと思う	2.5	<	4.3	1.1	<	3.3
2．男子が見たいのは、しかたがないことだと思う	32.8	<	46.0	37.6	<	54.7
3．ごく自然な（ふつうの）ことだと思う	64.7	>	49.7	61.3	>	42.0

(2) アダルトビデオを（女の子の友人と）ときどき見る女子高校生　(%)

	男子			女子		
	いる		いない	いる		いない
1．意志が弱いか、非行がかっている生徒だと思う	8.4	<	10.1	5.1	<	9.0
2．女子でも見たいのは同じで、しかたがないと思う	63.0	<	68.4	72.3	<	76.9
3．ごく自然な（ふつうの）ことだと思う	28.6	>	21.5	22.6	>	14.1

表4－10　性体験の許容性 × つきあっている相手の有無

(%)

	男子			女子		
	いる		いない	いる		いない
1．愛し合っていても高校生は、結婚を前提としないＳＥＸは絶対に避けるべきである	16.1	<	26.9	12.4	<	28.7
2．避妊さえ完全にしておけば、高校生どうしＳＥＸをしても別にかまわない	83.9	>	73.1	87.6	>	71.3

してフラれるくらいなら、ずっと片思いしている方がよい」「相手に気に入ってもらえるプレゼントやデートコースを考えることが面倒なのでつきあいたくない」「キスやＳＥＸのことを考えると、つきあうのがわずらわしい」「異性とつきあうより、同性とつきあう方が気楽だ」「異性とつきあっても、友だち以上の関係になりたくない」「異性への関心はあるが、特定の人とはつきあいたくない」などの項目での数値が高く、退嬰的である。さらに男子では「女の子は性知識にくわしいので、気おくれして誘えない」とする割合も高い。

つきあっている相手がいない高校生には、対異性行動に消極的で、軽い恋愛を望む傾向もみられる。

以上を総合すると、高校生の中で性行動に活発で積極的な層と異性とつきあうことに消極的な男子に層が分化してきており、今後も積極的な者は一層積極さが増していくのではないだろうか。特に女子は進路が多様なので、いっそうこの傾向が強くなることも予想され

表４－11　異性とのつきあい観 × つきあっている相手の有無

（%）

	男子			女子		
	いる		いない	いる		いない
1．高校時代は、異性よりたくさんの同性の友だちとつきあいたい	41.4	<	45.8	56.9	<	70.1
2．異性とつきあうより、同性とつきあう方が気楽だ	35.6	<	52.5	46.3	<	70.6
3．魅力的でつきあいたいと思える人がまわりにいない	22.9	<	38.5	18.6	<	53.0
4．特定の相手と深くつきあうより、何人か違う相手とつきあった方がよい	34.2	>	23.2	20.0	<	23.2
5．相手に気に入ってもらえるプレゼントやデートコースを考えることが面倒なのでつきあいたくない	11.0	<	33.6	12.2	<	20.2
6．異性への関心はあるが、特定の人とはつきあいたくない	12.8	<	17.8	7.8	<	16.3
7．キスやＳＥＸのことを考えると、つきあうのがわずらわしい	14.3	<	30.1	23.3	<	44.8
8．実際につきあうより片思いの方が楽しい	29.4	>	20.8	37.5	<	39.2
9．告白してフラれるくらいなら、ずっと片思いしている方がよい	13.6	<	30.8	31.4	<	45.1
10．異性とつきあっても、友だち以上の関係にはなりたくない	8.4	<	15.1	10.6	<	30.0
11．（男子のみ）女の子は性知識にくわしいので、気おくれして誘えない	9.4	<	22.8	－		－
（女子のみ）男の子はなんとなく気持ちが悪いので、つきあいたくない	－		－	1.1	<	5.9

「とても」＋「わりと」そうの割合

る。

わが国では青少年の性は、長い間抑圧されてきており、いわば陰の文化の扱いを受けてきた。高校生の場合も例外ではなく、全体的な性意識は大きく変化してきているが、校内では相手のいる生徒も、どこかコソコソと行動している。その行動に、アメリカの高校生のような明るさとオープンさはない。また旧世代のおとなたちは、親はむろん教師も心のどこかで、高校生の対異性行動に不安を捨てきれない。しかし、今回のデータからは、高校生が異性とつきあうことは学校や放課後・休日の充実感を増し、性的存在としての自分に自信を持ち、明るい自己像を持つようになることが見いだされた。

やがて、高校生がデートの帰りにキスをするくらいのつきあいをすることが、日常的な時代がやってきそうである。ただ、現状では子どもたちの対異性行動は、どこか抑圧され歪められて受け止められがちであり、また生徒も健康的な性の文化を発展させることができていない。

しかし高校生の性の文化を健康的なものにしていくには、何よりまずおとなの側に健康な性の意識と異性に対する態度を築き上げること、そして社会全体がこの点で「成長」していくことが必要であろう。また家庭や学校では今後、いわゆる「セクシュアリティの教育」とともに、例えば異性とつきあう折のマナーを教材にするなど、生徒の中に健康な「デートの文化」を作り上げていくための支援が必要であろう。